

「27th ミーティングに関する報告書」(2002.6.1)

タイトル

” 地域活性化って？ ～水窪町の場合～”

概要

地域活性化って、よく言われていますが、じゃあ実際その「地域」では、何が行なわれて、何が行なわれていないのでしょうか。そして、「地域」の現状・問題点を認識し、「地域」の少なくとも「独立・循環したシステム」を確立するためには。

・・・でした。

今回は、当会メンバー・天野さん（父上が町長）の住む、山間交通不便・主産業林業・高齢者比率高というトリプルパンチの水窪町（静岡）をケースとしました。

<http://www.enshu-net.or.jp/hokuen/index.html>

これにつき、12名のご参加により、活発なディスカッションが行われました。

さてさて、ミーティングですが・・・

菊池による、Strategic Planning <戦略経営研究会>の趣旨説明・・・

参加者全員による恒例の「近況報告」・・・

- 格付け >>ボツワナより下？ ボツワナっどこ？
- 知識の丸覚え >>資格予備校での受講生について。
- 新株予約権 >>商法だけでなく、税法も考えないと。
- 違和感 >>従来サイレントマジョリティからの発言。
- 水窪 >>アユ解禁。
- みずほ銀行 >>まだまだ、障害は続く？
- 大学教員 >>これからは、様々なことをこなさない。
- ケータイ >>第3世代？ 使い手の立場は？

・・・などなど。

さて・・・

” 地域活性化って？ ～水窪町の場合～” の茂木の発言となりまして・・・

大筋としては、

- ①資料から水窪町のイメージをつけてもらう、
- ②現状認識から問題点を抽出、
- ③天野さんの水窪での葬儀ベンチャー立上げ、
- ④水窪町における地域活性化とは。
(随時、発表の後、ディスカッションとなりました)

まず、①資料から水窪町のイメージをつけてもらうとしては、

「自然的特性」・・・静岡県の西北端に位置する。山間。
わずかな河岸段丘や、河川に沿った急峻な傾斜地に道路が開かれ、集落が点在している。

「歴史的特性」・・・縄文・弥生時代から、集落は存在。
史料に登場は、後醍醐天皇の皇子の流浪先と、武田信玄の進軍。

「人口特性」・・・平成12年 3723人
昭和30年（ピーク時） 10947人
今後の推計 平成24年 2651人。
現在、年間100人のペースで、人口が減少。
新規学卒者を中心とした若年齢層の流出が続く。

高齢者率（65才以上）
平成12年 35.2%
今後の推移 平成24年 47.4%
なお、平成24年の14才以下の率は、3.8%

過疎化・少子化・高齢化の進行。
労働力の低下とともに地域社会の活力が奪われている。

「経済的特性」・・・第1次産業「林業」
古くからの代表的な基幹産業であったが、生活環境条件の厳しさと、木材の価格の低迷により、長期的に不振。
(外材のほうが安く、水窪のすぎはブランド力もない。また、森を経営するほど、赤字が出る)

第2次産業「製材業、自動車部品、建設業」
労働力確保の難しさ。消費地と遠隔におかれる地理的条件の悪さ。

第3次産業「商業」

飲食料品や衣服、雑貨などの日常生活必需品の販売を主体とする零細な個人経営がほとんど。

(大手コンビニなども、その地理的な条件の悪さなどから進出していない)
ただし、小畑・神原・水窪・向市場の4自治区が連なる2714人の水窪地区の中心部は、町内最大の人口集積地であり、商店街が形成されている。

このため、消費購買において、37.6%が町内にて購入。

(それ以外は、浜松市、浜北市、天竜市などにて購入)

また、隣町・佐久間町からの購入者がけっこういる。

「交通特性」・・・JR飯田線(愛知県豊橋～長野県飯田)

JR東海バス(水窪～天竜～浜松)

国道152号線(飯田～水窪～天竜～浜松)

上記3つの交通手段しかないといえる(ただし、JRバスは廃止の方向)

古くは、飯田～水窪～天竜～浜松は、山と海とをつなぐルートとして、つながりは盛んであったが、現在、飯田～水窪のルートの交通量は少なくなっている。

(水窪が、国道152号の事実上の”終点”となっている)

・・・なお、三遠南信自動車道の構想が存在する。

ここまでで、参加者からは、

「かなり悪い状況とは考えてきたが、ここまでとは・・・」

「かりに、これが企業であれば、撤退をしなくてはならない」

(ごく単純に費用対効果で考えるのならば)

また、

「地域活性化よりは、いかに中央から税金を分捕るか

(この地域への配分を増やさせるか)しかないのでは？」との発言がありました。

「行政組織」・・・職員数 87人。

同一規模の町の平均値より、職員数若干多め。

(町の雇用媒体としては、最大と思われる)

議員数 11人。

(ちなみに、東京板橋区は、約50万人の人口に対して約50人)

財政(平成11年度)

歳入 39.4億円

(地方税 3.4 億円、地方交付税 19.7 億円)
歳出 37.1 億円
(人件費 7.4 億円、公共事業 13.0 億円)
同一規模の町の平均値を上回っている。

町債は、35.3 億円。
なお、町の収入としては、年金が重要。
年金収入 13 億円。誘致企業給与 20 億円。建設業 12 億円。

次いで、②現状認識から問題点を抽出として、

ここで茂木より、

「現在の国の財政状況から、地方交付金の削減が考えられる。
水窪町の財政状況に当然影響が出る。
また、町の収入としての、年金にしても、先行き不透明である」
との発言がありました。

また、「住民数のこれ以降、増加は考えられないのではないか？」

「なにより、若年層の流出に伴う、少子化は止まらないのではないか？」

(町は、Uターン・Iターンのために補助金を出す制度を持っていますが、ほとんど機能していない)

そして、「産業としても、1次産業の林業が上向くとは考えられず、2次産業の製造業は、製造業の空洞化にもあるようにあえて水窪町に進出するとは考えられず、また、建設業にしても、公共事業費の削減は避けられない」「3次産業の商業については、そもそも零細の商店ばかりなので、コスト的に経営の継続は可能であろうが、人口の減少に伴う、購買数の減少が起こっている」

参加者より、「町の利害構造の複雑さもうかがいしれる」との発言。

さらに、参加者（静岡・天竜在住）より、「閉鎖的な地域であり（自然的要素や交通的要素以外でも）、また、住民は、それでも現状生活は可能であるから、無気力となっている」との、発言、がありました。

③天野さんの水窪での葬儀ベンチャー立上げにつき、

上記のような問題点の抽出に対して、参加者より、「たとえば、福島県のある山村では、隣接の都市との交流、また国際的な交流により、活性化をはかっている。

なにより、文化的な要素での交流が注目される」との発言がありました。

また、別の参加者より、「財源・財政の地域への移譲を進めるべき」と。

「行政評価により、住民の満足であったり、不採算部門の洗い出しが必要」と。

さらに、菊池さんより、「戦略として、ニーズ・カスタマー・テクノロジーを考えるべき・ニーズとは、どうして水窪なのか？カスタマーとは、ターゲット・顧客。テクノロジーとは、顧客ニーズを満たすために何ができるか？」との発言。

ここで、茂木より、今回のディスカッションの方向性として、「地域における”独立”と”循環”」が必要ではないかとの発言がありました。

すなわち、「過疎・少子・高齢であっても、地域が持続的に存在できる」そして、「その存続のために、地域における経済のサークルの確立。また都市との交流」が、必要であるとのこと。

さらに、茂木より、水窪での「地域活性化」のためともなる、戦略研メンバー・天野さんによる、「葬儀ベンチャー立上げ」の発表がありました。

従来水窪では、葬儀の際、農協に依頼することがほとんどであったが、農協は、葬儀関係の商品（香典返しなど）を、水窪ではなく、他の地域より購入していた。

これでは、水窪の資産が他の地域へと流れることとなる。

そこで、「冠婚葬祭業を営み、顧客（地域住民）と地域社会と会社の幸福の最大化を図る」との経営理念から、「地元の地元による地元のための葬儀屋」の立上げとなった。

そして、葬儀関係の商品は、上記の水窪の商店街からの購入を行っている。

開業して半年足らずであるが、町の葬儀・法要のシェアの30%を占めたとのこと。

また、町民にも、好評であるとのこと。

さらに、現在、天野さんも含めて3人での事業であるが、忙しくなってきたので、雇用（アルバイトながら）も検討中とのこと。

④水窪町における地域活性化とは

・・・といったような、天野さんのビジネスは、水窪町における活性化の一つの指針となるのではないかと。

すなわち、「住民意識の変革は難しいことである。

しかしながら、誰かが先頭に立って行動を起こし、これについてくる人々が、徐々に増えていくというところからなのではないか？」

また、「サービス産業への着目が重要ではないか？若年層を労働力としなくてもこなさせることから」

そして、「町の中で、町のお金が循環するという仕組みを作っている」

・・・といった点がすばらしいとの「天野さんの葬儀ベンチャー」に対する茂木の発表でした。

また、「水窪町における観光業」という茂木からの提案がありました。

「自立する地域」（ぎょうせい）より、「高齢者の生きがいづくりと観光」との愛知県足助町のサンプルをまず紹介しました。

・・・過疎地域・足助町の地域づくりは、行政・住民・観光協会などが連携をとりつつ、高齢者対策や地域文化の保存・継承という地域課題の解決を観光を生かしながら行ってきた点に特徴。

また、観光資源として、「山・森・川」「水窪祭り」「国盗り綱引き」「シカ・イノシシ・栃餅・しいたけ・そば」そして、「民話」といったものが考えられる、と。

問題点は・・・水窪町は、観光施設として、「小和田公園」「カモシカ観察施設」「水窪民族資料館」など（ハコモノ）に投資をしたが、どれも、経営的に破綻していることから、住民すら観光事業に懐疑的。

また、なによりも、住民は「水窪は、な～んもないところ～」と。

さらに、観光事業は、

- 1次産業的な、天候・季節の変化、
 - 2次産業的な、施設など先行投資、
 - 3次産業的な、労働集約型からくる人件費、
- といったリスクを負い、PR活動を必要とする。

しかしながら、水窪に4度ほどお邪魔している、茂木としては、「そのなにもないところ、また、あまりにも田舎であることが、都市の住民的に、すばらしく、ノスタルジアを誘う」との、個人的意見。

そこで、外部との交流による刺激、また、外部の人間に水窪の価値を再評価してもらい、ハードよりもソフトを重視し、そして、高齢者のいきがいとなる装置と考え（雇用とまではいかないまでも）での、観光事業はありうるのではないかとの、茂木の提言でした。

また、参加者より、「隔離された地形であれば、VIPのための機密性・安全性の高い静養地となるのではないか？」

「閉鎖された購買圏の存在から、地域通貨の導入に向いているのではないか？」

との、提言もありました。

・・・というような感じで、あっという間の3時間でした。

そして、参加者の間で、「水窪活性化メーリングの立上げ」と、「水窪ツアー」（実際にどんな状況かみてみよう）のやり取りがありました。

追加補足・・・ 「市町村合併」について

現在、水窪町においては、隣町の佐久間町との合併のお話があります。

地域特性としては、水窪町と佐久間町は近似しています。

・・・水窪住民に言わせると、水窪が派手で、佐久間が地味とか。

佐久間町は、もともと「昭和の大合併」でできた町なので、6000人という人口です（ただし、年間1000人ぐらいの減少が続いています）

・・・佐久間町には、人口の中央集積地と水窪町と比べると呼べる程のものもなくまた、各地区ごとが別々の連帯・分科を持っているとのこと。

そして、佐久間町には、公共施設として、「県立佐久間高校」と、「県立佐久間病院」が存在します。

・・・高校は、水窪町からの中学卒業のほとんどを吸収し、病院は、水窪町で入院の事態のときは、ここだそうです。

また、佐久間町には、商店街も水窪町に比べると小規模であるので、佐久間町から水窪町への購買者が多いとのこと。

・・・逆に、水窪町から佐久間町への購買者はほとんどいないとのこと。

このような諸点から、地域としての近似性も高く、相互補完的でもあるなどとして、「合併調査研究会」が設けられています。

この調査研究会は、合併のメリット（行財政の面）としては・・・

- ・合併特例法による国県の財政支援が受けられる（10年ほど）
- ・生活環境基盤設備や道路整備につき、市町村合併支援プランの支援が受けられる
- ・職員・議員の減員が行える

デメリット（行財政の面）としては・・・

- ・戸籍。印鑑証明発行などの電算システムの統一化などの新たな財政支出の発生の可能性
- ・税や料金などの住民負担の軽減（住民にはメリット）
- ・補助金や奨励金などの給付の向上（住民にはメリット）

・・・としています。

合併により、両町の「負担」の軽いほう、「給付」の厚いほうが選ばれます。

・・・との茂木からの発言がありました。

どうも、合併のメリット・デメリットがわかりづらいとの印象。

なお、2005年3月が、財政支援策を盛り込んだ市町村合併特例法の期限となっています。